

(別添3)

【八潮市】
校務DX計画

1. 現状と課題

本市では、令和4年9月より統合型校務支援システムを導入し、これと同時に校務用パソコンの更新も行った。また、学習系と校務系のネットワークを分離し、校務系では仮想デスクトップを採用し、セキュリティの確保を行ったうえで安心して活用できる環境を整えている。

統合型校務支援システムでは、教育委員会と学校間の情報共有や、個人連絡、文書連絡、指導要録、出席簿、学級日誌の機能などを整備し、業務のデジタル化を推進している。また、別途保護者連絡ツールを導入し、保護者からの欠席連絡等の受け取り、学校からの手紙の配布などをデジタルで行っている。

これらの取組の結果、令和6年10月の「GIGAスクール構想の下での校務DXチェックリストに基づく自己点検」の実施結果（令和7年1月）では、「児童生徒の欠席連絡（約71%）」「業務時間外の問い合わせ（66.7%）」「資料をクラウド上で共有（60.0%）」が「完全にデジタル化（ペーパーレス化）している」と回答している。また、「職員間の情報共有や連絡（93.3%）」「授業研究会や研修等の協議（73.3%）」が「クラウドサービスを取り入れているか」と回答している。統合型校務支援システムを中心とした、校務の改善が進んでいる様子が分かる。

しかし、一方で、60.0%が「現金以外での学校徴収金の徴収」を「全くしていない」、86.7%が「押印が必要な書類」が「ある」と回答する等、校務DXを進めていくうえでの課題も明らかになっている。

2. 課題策と今後の方向性

1で挙げた課題や各種提言等を踏まえ、今後の校務DXの更なる推進に向け次のような方向性で取り組んでいく。

(1)校務系・学習系ネットワークの統合と、次世代の校務支援システムの整備

現状のネットワーク分離は、セキュリティ確保の面では安全性が高い環境であるが、ネットワーク間を行き来する際の認証作業やデータ移動の手間など、業務の効率という面では課題が残る。今後は、校務端末と学習端末の統合、ネットワークの統合を行い、2段階認証等によるセキュリティ環境を整え、ゼロトラストの考えに基づく、クラウド環境での校務支援システムが運用できるよう調査・研究していく。

(2)クラウドを前提としたGIGAスクール環境の積極的な活用

教材の共有、保護者から学校への提出物のデジタル化など、クラウドベースの汎用的なソフトウェアを校務で活用することで、不合理な作業の削減が可能である。しかし、これにはデータの収集や利用、保管に関する取り決めや保護者同意、アクセス権限の適切な設定など、教育情報セキュリティポリシーに基づいたデータの取り扱いについて適切に運用される必要がある。引き続き早期の教育情報セキュリティポリシーの策定に向け、また、より効果のあるサービスの利用方法について調査・研究していく。

(3)書類への押印の見直し、文書連絡のデジタル化の一層の促進

学校と教育委員会とのやり取りには、令和4年度より統合型校務支援システムの個人連絡機能が活用できるようになった。また、令和6年度からはこれに文書連絡機能が加わり、学校への通知や教育委員会への提出を同システムで行っている。しかしながら、端末が限られていることや、依然として紙での提出を求めているものもあり、業務がより複雑化したとの学校からの意見もあった。また、押印については、アンケートフォームで置き換えることができないかなどを考えていき、その必要性についても再検討し、押印・署名の原則廃止に向けて調査・研究していく。

なお、これらの施策を実現していくには、関係する各課が連携し同歩調で進めていくことが重要である。今後は、教育委員会として、より良い教職員の働き方を思い描き、教育委員会と学校現場の更なるDXを進めていく。